

別紙資料1

No	県名	長野県
1	支援拠点 機関名 (住所) (電話番号)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県立総合リハビリテーションセンター (長野市大字下駒沢618-1) (026-296-3953 代表) ○ JA長野厚生連 佐久総合病院 (佐久市臼田197)(0267-82-3131 代表) ○ 社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 (松本市本庄2-5-1)(0263-33-8600 代表) ○ 医療法人(社団) 健和会 健和会病院 (飯田市鼎中平1936)(0265-23-3115 代表)
2	支援コー ディネー ター (職種)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県立総合リハビリテーションセンター 窓口: 更生相談室 専任の職員は決めずそれぞれの部署で対応 ○ JA長野厚生連 佐久総合病院 医療相談室 常勤1名(兼務)MSW ○ 社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 医療連携センター 常勤1名(兼務)MSW ○ 医療法人 健和会 健和会病院 リハビリテーション科 常勤1名(兼務)OT
3	研修会や セミナー などの開 催状況 (予定を含 む)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高次脳機能障害専門セミナー・研修会 (県内4圏域ごとに各1回開催)
4	その他の 主な事業 内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 高次脳機能障害支援拠点病院連絡会議の開催 ② 地域における高次脳機能障害者(児)の受入れ可能な障害福祉サービス事業所等を調査し、結果をホームページに公表(予定)。
5	就学・就 労などの 社会参加 支援に対 する取組 み状況 (予定を含 む)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域自立支援協議会就労部会への参加。 ○ 高次脳機能障害者の一般就労・福祉的就労を目的として、模擬会社活動を中心に、訓練プログラム(個別訓練、集団訓練)を実施。 ○ 就労支援事業所の職員を対象とした勉強会の開催。
6	事業実施 上の課題 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域支援ネットワークの構築(医療機関、障害福祉サービス事業所、総合支援センター等) ○ 社会資源(障害福祉サービス事業所等)の把握等

別紙資料2

平成24年度関東甲信越ブロック高次脳機能障害関係研修会・セミナー・連絡会議等の実施状況

茨城県(茨城県立リハビリテーションセンター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
平成24年度第1回高次脳機能障害者支援従事者研修会	県立リハビリテーションセンター	医療・福祉・行政	H24.7.18	88名	演題:失語の理解と失語のある人々との関わり方について 講師:筑波大学准教授 吉野真理子氏
平成24年度第2回高次脳機能障害者支援従事者研修会	県立リハビリテーションセンター	医療・福祉・行政	H24.8.10	75名	演題:高次脳機能障害の理解と認知リハビリテーションについて 講師:筑波大学講師 望月聡氏
平成24年度第3回高次脳機能障害者支援従事者研修会	県立リハビリテーションセンター	福祉・行政	H25.1.25	17名	演題:①高次脳機能障害の理解 ②支援コーディネーターの役割について 講師:県立リハビリテーションセンター職員
平成24年度第4回高次脳機能障害者支援従事者研修会	県立リハビリテーションセンター	医療・福祉・行政	H25.2.15	36名	演題:成年後見制度の理解と活用 講師:筑波大学講師 名川勝氏
平成24年度第1回高次脳機能障害者訓練施設連絡会	県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者への訓練を実施している施設職員	H24.5.18	17名	①障害者職業センターの役割について ②就労に関する事例報告
平成24年度第2回高次脳機能障害者訓練施設連絡会	県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者への訓練を実施している施設職員	H24.8.31	13名	①認知リハビリテーションについて ②英国高次脳機能障害者支援研修旅行報告
平成24年度第3回高次脳機能障害者訓練施設連絡会	県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者への訓練を実施している施設職員	H24.11.30	15名	①障害者就業生活支援センターの役割 ②他機関と連携した事例報告
平成24年度第4回高次脳機能障害者訓練施設連絡会	県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者への訓練を実施している施設職員	H25.3.1	9名	「支援の見える化」についてグループワーク
平成24年度第1回高次脳機能障害者支援システム整備協議会	県立リハビリテーションセンター	協議会委員	H24.7.12	7名	支援機関活動状況について 今年度の事業計画について
平成24年度第2回高次脳機能障害者支援システム整備協議会	県立リハビリテーションセンター	協議会委員	H25.2.14	8名	支援機関活動状況について 社会資源調査について 来年度の事業計画について
市町村障害者福祉担当職員研修会	福祉相談センター	市町村障害福祉担当者	H24.4.20	約100名	演題:高次脳機能障害者 講師:県立リハビリテーションセンター職員
高次脳機能障害者支援と連携の会講演会	高次脳機能障害者支援と連携の会		H24.6.10	約100名	演題:①高次脳機能障害者の地域支援プログラム ②茨城県における相談の支援と現状 講師:①徳島大学院教授 白山靖彦教授 ②県立リハビリテーションセンター職員
土浦市六中地区民生委員児童委員協議会	土浦市社協	民生委員・児童委員	H24.9.27	20名	演題:高次脳機能障害者支援拠点機関の役割と茨城県内の状況 講師:県立リハビリテーションセンター職員
茨城県地域ケア研究会	茨城県地域ケア研究会	地域ケアコーディネーター	H24.10.3	50名	演題:高次脳機能障害を支える 講師:県立リハビリテーションセンター職員
茨城県南地区MSW勉強会	県南地区MSW勉強会	MSW	H24.11.15	9名	演題:高次脳機能障害～コーディネーターの役割と現状と課題～ 講師:県立リハビリテーションセンター職員
茨城県北西部地域リハビリテーション研究会	茨城県北西部地域リハビリテーション研究会	医療・福祉・行政・一般	H24.11.24	100名	演題:オレンジクラブいわてバージョン～家族のための心理教育～ 講師:栃内第二病院 山館圭子氏
看護師研修	看護協会	看護師	H24.12.7	60名	演題:高次脳機能障害とリハビリテーション 講師:県立医療大学付属病院精神科医 山川百合子氏
茨城県高次脳機能障害者支援と連携の会	茨城県高次脳機能障害者支援と連携の会	医療・福祉・行政・一般	H24.12.8	約100名	演題:①脳外傷となった少年の8年間の記録 ②生活を支えるコーチシステムの学びと実践 講師:筑波記念病院精神科医 山里道彦氏
常陸太田・ひたちなか医療圏高次脳機能障害勉強会	志村大宮病院	セラピスト	H25.1.28	25名	演題:①県立リハビリテーションセンターの役割 ②高次脳機能障害者支援について 講師:県立リハビリテーションセンター職員
茨城県リハビリ講習会	茨城県リハビリ講習会	医療・福祉・行政・一般	H25.2.9	約50名	演題:①高次脳機能障害を持つ利用者様の就業に関する関わり ②高次脳機能障害者の就労支援 講師:①就業生活支援センターなかも 渡邊学氏 ②幕張障害者職業総合センター 田谷勝夫氏
県立医療大学地域貢献シンポジウム	県立医療大学付属病院	医療・福祉・行政・教育・一般	H25.2.17	約200名	演題:小児の高次脳機能障害～医療・教育における問題点～ 講師:神奈川リハ医師 栗原まな氏
利根町地域包括支援センター研修会	利根町地域包括支援センター	医療・福祉・行政	H25.2.20	95名	演題:高次脳機能障害者の理解と支援 講師:県立リハビリテーションセンター職員

栃木県(とちぎリハビリテーションセンター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害セミナー	とちぎリハビリテーションセンター	県民	H25.2.3予定	350名 定員	「高次脳機能障害～どう対応したらよいか」 講師:神奈川リハビリテーション病院 高次脳機能障害支援室長 医師 青木 重陽 氏
相談支援研修会	とちぎリハビリテーションセンター	相談支援専門員、 市町担当者	H24.5.29	68名	「栃木県の高次脳機能障害の支援の取組について」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 「高次脳機能障害の支援について～地域の相談支援」 講師:神奈川リハビリテーション支援センター 高次脳機能障害支援コーディネーター 滝澤 学 氏
医療従事者研修	団体への委託事業	言語聴覚士等	H24.12.16	30名	基調講演「高次脳機能障害者への支援～入院から退院、就労へ～」 講師:国際医療福祉大学保健医療学部教授 阿部 晶子氏 シンポジウム「繋がりのある支援とは」 シンポジスト:回復期ST、福祉施設サビ管、支援Co
医療従事者研修	団体への委託事業	作業療法士等	H25.1.28	45名	テーマ「地域生活を見据えた高次脳機能障害者のリハビリテーション～実践と仕組み～」 「作業療法士協会の動向、トピックス」 講師:栃木県作業療法士会 会長 黒淵 永寿 氏 「地域生活を見据えた高次脳機能障害者のリハビリテーション」 講師:マロニエ医療福祉専門学校 作業療法科 青柳 由美子 氏 「栃木県における高次脳機能障害の支援体制の現状と課題」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 「障害者の地域生活支援の仕組み」 講師:障害者相談支援協働コーディネーター 相談支援専門員 熊田 誠 氏 「グループワーク」
実務研修	とちぎリハビリテーションセンター	福祉サービス事業所職員、 相談支援従事者等	H24.7.31	42名	「高次脳機能障害の地域支援」 講師:特定非営利法人脳外傷友の会ナナ クラブハウスすてっぷなな 統括所長・作業療法士 野々垣 陸美 氏
実務研修	とちぎリハビリテーションセンター	医療ソーシャルワーカー、 精神保健福祉士等	H25.2.24予定	50名 定員	「高次脳機能障害の理解」(仮題) 講師:国際医療福祉大学病院 神経内科神経難病部長 橋本 律夫 氏 「栃木県の高次脳機能障害の取組について」 講師:とちぎリハビリテーションセンター 相談支援部職員 「事例紹介」
ピアカウンセリング研修	とちぎリハビリテーションセンター	とちぎ高次脳機能障害 友の会会員	①H24.5.22 ②H24.6.19 ③H24.7.24	① 5名 ② 7名 ③ 5名	①「面接相談の基本的な心構え」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 ②「高次脳機能障害 ピアカウンセリング」 講師:特定非営利法人 ほつぷの森 ピアカウンセラー 佐々木 智 賀子 氏 ③「高次脳機能障害 ピアカウンセリング」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員
福祉施設職員研修	栃木県社会福祉協議会	福祉施設支援員、 市町職員等	H24.7.17	64名	「栃木県における高次脳機能障害支援の取組について」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師:塩原温泉病院リハビリテーションセンター言語聴覚科 緒方 啓一 氏
家族教室	とちぎリハビリテーションセンター	当事者の家族	①H24.10.29 ②H24.11.16 ③H24.12.7	① 15名 ② 15名 ③ 12名	①「高次脳機能障害と症状について」 講師:とちぎリハビリテーションセンターリハビリテーション病院リハ科 医師 ②「家庭での対応について①(記憶障害・注意障害)」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 ③「家庭での対応について①(遂行機能障害・社会的行動障害)」 講師:国際医療福祉大学 作業療法学科 准教授 小賀野 操 氏
高次脳機能障害支援連携調整委員会	栃木県(主管課)	当事者団体、施設団体、 関係機関団体代表者等	①H24.7.19 ②H25.2.28	委員数 15名	①H23年度高次脳機能障害支援に係る事業実施状況について H24年度高次脳機能障害支援方針について ②開催予定
高次脳機能障害者支援専門部会	栃木県(主管課)	県内各関係機関支援 実践代表者等	①H24.9.6 ②H24.11.1 ③H25.2.7	委員数 11名	①H24年度専門部会の運営について ②地域における支援実践に関する情報の共有化 社会資源調査について ③開催予定

群馬県(前橋赤十字病院、こころの健康センター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害支援連絡会議	障害政策課	当事者家族、県立障害者リハビリテーションセンター、障害者職業センター、医療機関代表、市町村代表、支援拠点機関、こころの健康センター、障害政策課	H24.9.10	13名	高次脳機能障害支援普及事業について 高次脳機能障害支援拠点機関の活動状況について こころの健康センターにおける事業について 各機関・団体の取組について 意見交換
ぐんま高次脳機能障害リハビリテーション講習会	ぐんま高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会(群馬県後援)	医療機関、リハビリ関係者、就労支援関係者、介護関係者、行政関係者、当事者、家族等	H24.11.3	150名	精神科デイケアにおける高次脳機能障害者への支援 講師：山里道彦(筑波記念病院) 高次脳機能障害者に対する就労支援～県内における現状～ 講師：近藤光徳(群馬障害者職業センター)
高次脳機能障害専門研修	こころの健康センター	高次脳機能障害者支援に関わる医師	H25.1.20	11名	高次脳機能障害者への障害年金診断書の書き方 講師：南魚沼市立ゆきぐに大和病院 院長 宮永 和夫 氏
		高次脳機能障害者支援に関わる医療機関職員、福祉施設職員、行政職員及び当事者、家族等	H25.1.20	105名 (専門別コース32名含む)	高次脳機能障害者を地域で支える～切れ目のない支援体制づくりをめざして～ 座長：南魚沼市立ゆきぐに大和病院 院長 宮永 和夫 氏 シゴキスト：群馬県立障害者リハビリテーションセンター副所長 奥寺 淳子 氏 公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院 地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー 加藤 充子 氏 社会福祉法人 かなな会 障害者就業・生活支援センタータス 生活支援ワーカー 亀井 あゆみ 氏
相談支援従事者専門コース別研修(高次脳機能障害)	障害政策課	相談支援業務に従事する者	H25.1.20	34名	高次脳機能障害概要 講師：赤田卓志朗(県立精神医療センター) 高次脳機能障害者の特性の理解 講師：町田観誠(くすの木病院) 関係機関等の理解 講師：中井正江(群馬県高次脳機能障害支援拠点機関) 実践事例報告：シンポジウム (高次脳機能障害専門研修と合同)
高次脳機能障害支援連絡会議	障害政策課	当事者家族、県立障害者リハビリテーションセンター、障害者職業センター、医療機関代表、市町村代表、支援拠点機関、こころの健康センター、障害政策課	H25.3.18	13名	支援拠点機関活動状況報告 社会資源調査状況報告 こころの健康センターにおける支援状況の報告 (仮)連携バス等情報共有のための在り方検討

埼玉県(埼玉県総合リハビリテーションセンター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
リハビリテーションターマ別研修「高次脳機能障害」1日目	埼玉県総合リハビリテーションセンター	関係機関職員	H24.9.7	71名	①医学的基礎知識 ②神経心理学的理解と認知リハビリテーション
リハビリテーションターマ別研修「高次脳機能障害」2日目	埼玉県総合リハビリテーションセンター	関係機関職員	H24.9.13	69名	支援の実際と対応の工夫(医療部門での訓練)、(看護)、(相談支援)、(障害者支援施設での訓練と支援)、(体育訓練)
高次脳機能障害理解促進セミナー「高次脳機能障害の理解と地域支援」	埼玉県(本庁主管課)	一般県民等	H24.10.21	221名	①高次脳機能障害者支援センターについて ②「高次脳機能障害の理解と地域支援」 東京慈恵会医科大学附属第三病院 渡邊 修 診療部長
高次脳機能障害に係る医療関係者向け専門研修会その1	埼玉県	医師、PT、OT、ST、臨床心理士等	H24.12.4	258名	①高次脳機能障害者支援センターについて ②「高次脳機能障害の画像診断」 東北大学大学院医学系研究科 森 悦朗 教授
高次脳機能障害に係る医療関係者向け専門研修会その2	埼玉県	医師、PT、OT、ST、臨床心理士等	H25.2.28	73名	事例検討(グループワーク) 総合リハビリテーションセンター 市川 忠 医療局長
高次脳機能障害及び認知症に関する市町村職員等研修	埼玉県(本庁主管課)	市町村職員等	H25.1.22	42名	①高次脳機能障害者支援について等(行政説明) ②「高次脳機能障害と認知症の鑑別診断」 南魚沼市立ゆきぐに大和病院 宮永 和夫 院長
高次脳機能障害支援体制整備推進委員会	埼玉県(本庁主管課)	当事者団体、施設団体、関係機関代表者等	H24.9.18 H25.3.26	委員11名	県内における支援体制整備の実態を把握し、今後の高次脳機能障害者支援のあり方を検討することにより支援体制の整備を図る。次回委員会は、3月26日を予定。
関東甲信越・東京ブロック合同会議	埼玉県総合リハビリテーションセンター	関東甲信越・東京ブロック関係職員	H24.7.26	40名	①各都県支援拠点機関における事業の進捗状況について ②支援拠点機関の運営、地域ネットワークの構築について ③修学・就労などの社会参加支援に対する実態把握や取組状況
高次脳機能障害地域交流会(ピア・カウンセリング事業)	埼玉県(当事者団体委託)	当事者とその家族等	19回(予定)	—	当事団体によるピア・カウンセリング等の実施

千葉県(千葉県千葉リハビリテーションセンター、旭神経内科リハビリテーション病院、亀田メディカルセンター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
H24年 第1回 高次脳機能障害講習会 「神経心理検査の見方」	柏市地域活動支援センターまんでん柏	支援従事者	H24.6.25	34名	神経心理検査の大まかな内容と結果の意味、数値の見方などについて
出張講義(安房地域自立支援協議会相談部会)	高次脳機能障害支援普及事業	自立支援協議会相談部会メンバー	H24.8.1	25名	支援普及事業紹介、高次脳機能障害支援のポイント講義
千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会	千葉県	支援拠点機関、関係機関職員等	H24.8.29	22名	・県高次脳機能障害支援について ・各拠点機関の実施状況について ・家族会活動について ほか
第8回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	一般県民、関係機関職員	H24.9.20	254名	テーマ:「今日における認知リハビリテーションの効果と課題」 東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科 診療部長 渡邊 修氏
東葛菜の花講習会 「集団訓練について」	高次脳機能障害者と家族の会 東葛菜の花	当事者、家族、一般市民	H24.9.23	54名	集団訓練の概要と当院の集団訓練の紹介、プログラム実演
出張講義(鴨川市ヘルパー連絡協議会)	高次脳機能障害支援普及事業	鴨川市内事業所所属のヘルパー	H24.9.26	13名	支援普及事業紹介、高次脳機能障害支援のポイント講義
H24年 第2回 高次脳機能障害講習会 「高次脳機能障害における生活リハ」	柏市地域活動支援センターまんでん柏	支援従事者	H24.10.29	33名	OTの視点から、高次脳機能障害の生活リハについて
南房総リハビリテーション・ケア文化祭	高次脳機能障害支援普及事業 安房地域リハビリテーション広域支援センター	医療・介護・教育・行政・福祉関係者 及び一般市民	H24.11.18	162名	講演「小児の高次脳機能障害」 各事業所の取り組みポスター発表
第9回高次脳機能障害リハビリテーション講習会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	一般県民、関係機関職員	H25.1.12	202名	テーマ:「障害者の就労」～高次脳機能障害者を視野に入れて～ ①講演:障害者雇用の現況と課題について NPO法人 障がい者就業・雇用支援センター理事長 秦 政 氏 ②パネルディスカッション:「高次脳機能障害者の就労(復職)を考える」
第11回高次脳機能障害交流会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	当事者とその家族	H25.2.16	150名	テーマ:「高次脳機能障害者が地域で暮らす」～グループホームについて～ ①グループホーム・ケアホームってどんなところ?～千葉県内の動き～ 中核地域生活支援センター・海匠ネットワーク 障害者グループホーム等支援ワーカー 英 一馬氏 ②高次脳機能障害者のためのグループホーム～笑い太鼓での取り組み～ NPO法人 笑い太鼓高次脳機能障害支援センター 施設長 加藤俊宏氏
家族の集い(予定)	高次脳機能障害支援普及事業	家族	H25.3	15名	社会資源勉強会、交流会
平成24年度「ボランティアはじめの一歩」高次脳機能障害者の社会参加支援事業報告会	特定非営利活動法人 VAIC-CCIコミュニティケア研究所、千葉県千葉リハビリテーションセンター	一般県民、関係機関職員	H25.3.16	100名	3年の協働事業期間に高次脳機能障害者の多様な社会参加に関する事業を展開し、システムの体系を仮提案出来るようになった。今後は社協等地域活動支援の機関や行政に働きかけて、一層多様な社会参加の形態を展開出来ることを目指した報告会とする。

※開催日および出席者数が斜体、アンダーバーの箇所については予定

神奈川県(神奈川県リハビリテーション支援センター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害セミナー理解編	神奈川県リハビリテーション支援センター	一般	8/25	199名	医学的理解・家族の立場から・心理の立場から・OTの立場から・就労支援の立場から・相談支援の立場から・地域での実践者の立場から
高次脳機能障害セミナー小児編	神奈川県リハビリテーション支援センター	支援者向け	11/10	41名	医学的理解・心理・OT・ST・SW・かもめ学級
高次脳機能障害研修会in厚木	神奈川県リハビリテーション支援センター	支援者向け	11/25	67名	医学的理解・相談支援・地域支援・就労支援
高次脳機能障害セミナー実務編	神奈川県リハビリテーション支援センター	支援者向け	2/2	68名	医学的理解・心理・OT・PT・就労支援・相談支援
高次脳機能障害セミナー就労支援編	神奈川県リハビリテーション支援センター	支援者向け	2/23	定員40名	医学的理解・就労支援・就労支援機関の紹介・連携事例・事例検討
神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会	神奈川県リハビリテーション支援センター	行政機関・職域団体・家族会	3/4	17名	神奈川県における高次脳機能障害相談及び支援の整備についての現状確認、今後の方向性を検討する
高次脳機能障害支援システム検討委員会	神奈川県リハビリテーション支援センター	学識経験者・行政機関・相談支援事業所・医療機関・就労支援機関・ケアマネ協会・家族会等	7/25・2/21	延べ29名	障害保健福祉圏域における高次脳機能障害支援システムの整備についての現状確認、今後の方向性を検討する

新潟県(新潟県高次脳機能障害相談支援センター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害相談支援に係る保健所担当職員研修会	新潟県精神保健福祉センター	保健所相談員	H24. 5. 24	17名	①講義「高次脳機能障害支援において地域の支援拠点に期待するもの」(ゆきぐに大和病院地域医療連携室 手島雅敏氏) ②グループ討議
第1回高次脳機能障害相談支援地域拠点連絡会議	新潟県精神保健福祉センター	保健所相談員	H24. 5. 24	17名	地域の支援拠点における高次脳機能障害支援の取り組みについて ①高次脳機能障害相談実績と相談事例について ②圏域別支援従事者研修について
高次脳機能障害者支援に係る医療関係職員研修会	新潟県精神保健福祉センター	医療関係者、行政職員等	H24. 10. 14	151名	講義「高次脳機能障害～医療関係職員のための理解と支援のポイント～」(東京慈恵会医科大学付属第三病院 渡邊修先生)
新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会	新潟県福祉保健部障害福祉課	関係機関代表者等	H24. 10. 15	20名	①H23事業実績報告とH24事業計画について ②相談支援体制の現状と課題 ③高次脳機能障害に関する国の運営方針と県の取り組みについて
中越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(長岡地域振興局健康福祉環境部)	中越圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H24. 10. 26	12名	①講義「高次脳機能障害者への支援のポイントとネットワークの作り方」(支援コーディネーター) ②家族のつどいを通して、家族から支援者に伝えたいこと ③グループワーク
佐渡圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(佐渡地域振興局健康福祉環境部)	佐渡圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H24. 11. 30	14名	①講義「高次脳機能障害支援の基礎知識とネットワーク」、「高次脳機能障害相談支援センターにおける支援の実践」(支援コーディネーター) ②意見交換(高次脳機能障害への対応状況、地域における課題等)
新潟圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(新潟地域振興局健康福祉部)	新潟圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H24. 12. 1	74名	①講義「高次脳機能障害とは～症状とその対応について～」(下越病院言語聴覚士) ②行政説明「新潟県における高次脳機能障害者支援について」(支援コーディネーター)
上越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(上越地域振興局健康福祉環境部)	上越圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H24. 12. 14	42名	①講義「高次脳機能障害の基礎知識について」(みどり病院言語聴覚士) ②情報提供1「県の相談支援体制と相談の現状及び上越圏域の事例について」(支援コーディネーター) ③情報提供2「医療現場から見た高次脳機能障害の現状について」(上越総合病院医療ソーシャルワーカー) ④グループワーク
県央圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(三条地域振興局健康福祉部)	県央圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 1. 17	66名	①行政説明「新潟県における高次脳機能障害者支援」(支援コーディネーター) ②講義「高次脳機能障害についての基礎知識」(三之町病院言語聴覚士) ③高次脳機能障害支援の実践(相談支援センター、三之町病院、障害福祉サービス事業)
魚沼圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(魚沼地域振興局健康福祉部)	魚沼圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 2. 28	50名 定員	①講義「高次脳機能障害の具体的な支援について」(ゆきぐに大和病院リハビリテーション科・地域連携室職員) ②グループワーク
下越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(村上地域振興局健康福祉部)	下越圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 3. 12	40名 定員	①講義「高次脳機能障害とは」(新潟リハビリテーション大学教授) ②事例報告(障害者支援施設相談支援専門員) ③グループワーク
第2回高次脳機能障害相談支援地域拠点連絡会議	新潟県精神保健福祉センター	保健所相談員	H24. 12. 7	15名	①支援拠点運営委員会の報告 ②高次脳機能障害の国の運営方針と県の取り組みについて ③家族のつどい、家族教室の実施状況報告 ④圏域別支援従事者研修会について 等
高次脳機能障害ケース検討会	新潟県精神保健福祉センター	高次脳機能障害者等の相談支援従事者、新潟神経心理懇話会会員	H24. 12. 7	28名	事例検討「病院から地域への連携と就学継続支援を含む連続的なケアが求められる低酸素脳症の一例」 助言:総合リハビリテーションセンターみどり病院 工藤由理先生
新潟県高次脳機能障害相談支援センター(新潟県精神保健福祉センター)	新潟県精神保健福祉センター	一般県民、当事者とその家族、支援者等	H25. 3. 9	100名 定員	①講演「高次脳機能障害～心と身体で支えるリハビリテーション～」(国立成育医療研究センター橋本圭司先生) ②関係機関からの報告(相談支援の現状と課題)
高次脳機能障害家族のつどい	新潟県精神保健福祉センター、脳外傷友の会「スワン」	高次脳機能障害者の家族	H24. 5～ H25. 1 隔月全5回	延べ24名	当事者の家族による語り合い、グループワーク
高次脳機能障害家族のつどい	地域支援拠点(長岡地域振興局健康福祉環境部)	高次脳機能障害者の家族	H24. 6～12 隔月全4回	延べ17名	当事者の家族による語り合い、グループワーク
高次脳機能障害家族教室	新潟県精神保健福祉センター	高次脳機能障害者の家族	H24. 7～10 月1回全4回	延べ10名	①講義「高次脳機能障害について」(ゆきぐに大和病院職員) ②講話「家族の体験談、家族の思い等」(脳外傷友の会スワン会員) ③講義「高次脳機能障害の相談支援について」(相談支援センターみなみうおぬま)、「成年後見制度について」(権利擁護センター)、「障害者の就労支援について」(南魚沼公共職業安定所) ④振り返って語り合い

山梨県(甲州リハビリテーション病院)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
リハ専門職学習会(第1回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	6/26	12名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
高次脳機能障害研修会 理解編(峡南保健所)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	当事者・家族・県民一般・専門職等	7/6	27名	支援センターの活動報告、相談支援(社会福祉士 岩間英輝)、講義: 診断・評価(医師 市瀬祐一)、症状の理解(作業療法士 平原由梨子)、生活する工夫(言語聴覚士 石原徳子)
高次脳機能障害研修会 理解編(富士・東部保健所)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	当事者・家族・県民一般・専門職等	7/20	25名	支援センターの活動報告、相談支援(社会福祉士 岩間英輝)、講義: 診断・評価(医師 市瀬祐一)、症状の理解(作業療法士 平原由梨子)、生活する工夫(言語聴覚士 石原徳子)
リハ専門職学習会(第2回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	7/24	27名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
高次脳機能障害研修会 理解編(中北保健所 峡北支所)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	当事者・家族・県民一般・専門職等	7/27	41名	支援センターの活動報告、相談支援(社会福祉士 岩間英輝)、講義: 診断・評価(医師 市瀬祐一)、症状の理解(作業療法士 平原由梨子)、生活する工夫(言語聴覚士 石原徳子)
高次脳機能障害研修会 理解編(甲府市 びゅあ総合)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	当事者・家族・県民一般・専門職等	8/10	57名	支援センターの活動報告、相談支援(社会福祉士 岩間英輝)、講義: 診断・評価(医師 市瀬祐一)、症状の理解(作業療法士 平原由梨子)、生活する工夫(言語聴覚士 石原徳子)
高次脳機能障害研修会 理解編(峡東保健所)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	当事者・家族・県民一般・専門職等	8/24	52名	支援センターの活動報告、相談支援(社会福祉士 岩間英輝)、講義: 診断・評価(医師 市瀬祐一)、症状の理解(作業療法士 平原由梨子)、生活する工夫(言語聴覚士 石原徳子)
リハ専門職学習会(第3回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	8/28	31名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
リハ専門職学習会(第4回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	9/25	21名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
山梨県作業療法士会 研修会	山梨県作業療法士会	作業療法士 他	10/5	200名	支援センターの活動報告、相談支援(社会福祉士 岩間英輝)、講義: 診断・評価(医師 市瀬祐一)、症状の理解(作業療法士 平原由梨子)、生活する工夫(言語聴覚士 石原徳子)
リハ専門職学習会(第5回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	10/23	22名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
高次脳機能障害者支援 講演会『脳を守り活かす』	山梨県・山梨県高次脳機能障害者支援センター	県民一般	11/17	110名	講演:「脳を守り活かす」 講師: 松戸市病院事業管理者 植村研一先生
リハ専門職学習会(第6回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	11/27	25名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
リハ専門職学習会(第7回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	12/25	16名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
リハ専門職学習会(第8回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	1/22	15名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
リハ専門職学習会(第9回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	2/26	18名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)
リハ専門職学習会(第10回)	山梨県高次脳機能障害者支援センター	作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士	3/26	16名	評価・検査・訓練等支援手法の学習会・事例検討など (作業療法士 関谷宏美、平原由梨子、言語聴覚士 石原徳子、臨床心理士 三澤知恵)

長野県(長野県立総合リハビリテーションセンター、相澤病院、健和会病院)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日等	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害専門セミナー	相澤病院	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H24.9.1	220名	①「高次脳機能障害診療における医療機関の役割」 相澤病院 リハビリテーション科 統括医長 原 寛美 氏 ②「注意障害とリハビリテーション」 東海大学大磯病院 リハビリテーション科 教授 豊倉 穰 氏 ③「当事者となった高次脳機能障害専門家の経験」 神戸大学大学院 保健学研究科 客員教授 関 啓子 氏
高次脳機能障害研修会(南信地域)	健和会病院	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H24.11.3	148名	①「高次脳機能障害の理解と対応」 東京慈恵会医科大学 附属第三病院リハビリテーション科 診療部長 渡邊 修 氏 ②「運転免許制度における病気について」 飯田警察署交通課 専門幹 山本 英二 氏 ③「運転について～健和会病院の取組み～」 健和会病院 ④「当事者の立場から思うこと」 竹村 氏
高次脳機能障害研修会(北信地域)	県立総合リハビリテーションセンター	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H24.12.15	109名	①「高次脳機能障害とは 長野県の支援の現状」 長野県立総合リハビリテーションセンター 医務次長 田丸 冬彦 氏 ②「県立総合リハビリテーションセンター施設部門における就労支援」 長野県立総合リハビリテーションセンター 主査作業療法士 松井 典子 氏 ③「当事者の声高次脳機能障害者が働くということ」 ～当事者側から知っておいて欲しいこと、希望すること～ ④「高次脳機能障害者の就労支援」 障害者職業総合センター 特別研究員 田谷勝夫 氏
高次脳機能障害研修会(東信地域)	佐久総合病院	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H25.1.19	91名	①「高次脳機能障害患者会『虹の会』の活動について」 佐久総合病院 言語聴覚士 河手 伴圭 氏 ②「働きたいを支える視点」 特定非営利活動法人 高次脳機能障害者支援『笑い太鼓』 高次脳機能障害者支援センター 施設長 加藤 俊宏 氏

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究

研究分担者 高木 真一 東京都心身障害者福祉センター所長

研究要旨

東京都の支援拠点機関である東京都心身障害者福祉センターにおいて、支援ネットワーク構築、就労支援、人材育成・普及啓発、相談支援に加え、24年度は新たに「社会生活評価プログラム」を実施し、区市町村における相談支援体制や医療機関、福祉関係機関等の連携による支援ネットワークの形成などを支援することで、高次脳機能障害者が安心して暮らすことのできる地域社会づくりを実現していくことを最終目標とする事業展開の研究。

A. 研究目的

本研究は、東京都の支援拠点機関である当センターにおいて、支援コーディネーターをはじめとする専門職員が、支援ネットワーク構築、就労支援、人材育成・普及啓発、相談支援に加え、24年度は新たに「社会生活評価プログラム」を実施することで、地域福祉の担い手である区市町村が地域で高次脳機能障害者を受け入れる支援体制を構築し、高次脳機能障害者が安心して暮らすことのできる地域社会づくりを最終目標とするものである。

B. 研究方法

東京都心身障害者福祉センターを中心として、①支援ネットワーク構築、②就労支援、③社会生活評価プログラム、④人材育成・普及啓発、⑤相談支援、の事業に沿って研究する。

個人データを調査する際には下記の倫理面での配慮をなす。

（倫理面への配慮）

本研究において得られた調査データは個人が特定できないようにされたデータのみを使用する。また、アンケート調査については、個人調査が必要な時には調査対象者及び家族等から、文書によるインフォームドコンセントを徹底し、被験者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

結果の公表については対象者及び保護者・関係者から、文書にてインフォームドコンセントを徹底し、承諾を得た。また、個人が特定できないように格別の注意を払った。

C. 研究結果

①支援ネットワーク構築、②就労支援、③社会生活評価プログラム、④人材育成・普及啓発、⑤相談支援、の五つを柱に事業を展開した。

①支援ネットワーク構築では、医療、福祉、就労、教育、行政の各機関、学識経験者、当事者家族会等による相談支援体制連携調整委員会を年2回開催し、都の事業展開について協議を行っている。委員会での意見等を踏まえ22・23年度に二次保健医療圏ごとのネットワーク構築を目的にモデル事業として2圏域で実施した、専門的リハビリテーションの充実事業を、24

年度からは4圏域に拡大して本格実施した。また、都の補助事業実施自治体を中心に区市町村の相談支援体制づくりを支援した。

②就労支援では、地域の就労支援機関等の依頼に基づき、「就労準備支援プログラム」により、6ヶ月間の職業評価を実施。また、24年度は、区市町村の就労支援機関等の支援の実態を調査し、回答のあった48機関で23年度中に支援を行った高次脳機能障害者170名中165名の支援内容等について取りまとめた。

③就労以前の課題のある者の支援の充実の目指し、24年10月から新たに「社会生活評価プログラム」を開始。地域の支援機関の依頼に基づき、個別課題やグループワークを通じて生活管理面等の評価を行い、支援方針等の助言を行う。年度末までの新規利用者数13名。

④人材育成では、区市町村の障害福祉関係機関、病院、保健所、就労支援機関、作業所、相談支援事業所等の職員を対象に、24年度は合計6回の研修会・連絡会を実施し、延べ667人の参加を得た。

広報・普及啓発では、「災害時初動行動マニュアル」を作成し、高次脳機能障害者や家族への防災の知識普及を図った。

⑤相談支援事業では専用電話相談が新規463件、継続268件に対応。地域機関と連携し、支援を進めた。

D. 考察

支援ネットワーク構築では、区市町村の相談体制への補助事業に加え、医療・福祉のネットワークを図る専門的リハビリテーションの充実事業が本格事業化されたことで、地域ごとの連携体制の構築を推進する枠組みが整えられた。

「区市町村障害者就労支援機関等における高次脳機能障害者の就労支援に関する調査」では、地域で支援を受けている165名の高次脳機能障害者の属性や支援内容を調査。地域の就労支援機関で幅広い内容の支援が行われている一方で、高次脳機能障害の特性や理解の難しさが就労支援の場で課題になっていることが明らかになった。プログラムのさらなる利用促進を図り、地域の就労支援機関の取組をサポートしていく必要がある。

また、生活管理上の課題があるために、就労支援の段階に至らない層への支援の必要に対応するため、新たに「社会生活評価プログラム」を開始した。地域の支援機関からの依頼に基づき、約4ヶ月の通所期間中に、生活管理・作業能力・対人技能面等の評価

を行った。年度末までに13名が利用、うち6名が終了し、今後の支援方針や、対応方法等の助言等を行った。短期間の集中的な関わりや、同じ障害のある者同士のコミュニケーションを通じて、地域機関では得にくい支援の視点を提供できると思われるが、さらに内容の検証を行い、普及を図る必要がある。

人材育成は、小児の高次脳機能障害に関する研修を実施するとともに、事例検討型研修の日程を増やし、より実践的な人材の育成に取り組んだ。広報・普及啓発では、東日本大震災以降要望の高い高次脳機能障害者向けの「災害時初動行動マニュアル」を作成し、防災の知識普及を図った。

相談支援では、専用電話相談は、より複雑で長期にわたる支援の必要な相談が目立つようになっており、今後、相談内容の検証が必要である。また、他県の支援コーディネーター間の情報連絡が活発になっており、よりよい広域連携のあり方の共有が必要となっている。

E. 結論

高次脳機能障害者が在宅生活や就労を継続するためには、区市町村が、地域の関係機関と連携してサービスや相談の充実を図っていくことが重要である。

都補助事業である区市町村高次脳機能障害者支援促進事業の拡充に加え、医療機関とのネットワークを進める専門的リハビリテーションの充実事業の着実な実施を支援しつつ、支援拠点として、困難ケースへの対応の支援、職業面や生活管理面の評価など、専門的な技術支援を併せて提供することで、東京都が推進している地域の支援体制づくりの成果が現れ始めている。

F. 健康危険情報

特に無し。

G. 研究発表

1. 論文発表
特に無し。
2. 学会発表
特に無し。

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得
特に無し。
2. 実用新案登録
特に無し。
3. その他
特に無し。

「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」実績報告 (東京ブロック)

東京都心身障害者福祉センター

1. 支援ネットワーク構築

東京都における高次脳機能障害者の支援体制づくりの考え方

受傷・発症～社会参加
切れ目のない支援

地域の医療・保健・福祉の
ネットワークづくり

- 専門的リハビリテーションの充実事業(東京都事業)
- 独自の圏域ネットワーク協議会

身近な地域で相談
できるように

区市町村の相談支援体制づくり

- 区市町村高次脳機能障害者支援促進事業(区市町村補助事業)
- 高次脳機能障害者緊急相談支援事業(区市町村補助事業)

支援拠点機関としてこれらを支援する各種事業を展開

■「専門的リハビリテーションの充実」事業

1 事業目的

二次保健圏域の中核を担う医療機関を中心に、地域機関への助言や人材育成、関係機関の連携を進め、切れ目のないリハビリテーションの提供体制の推進を図る。(22年度～モデル事業 24年度～本格実施)

2 事業内容

- 圏域内の区市町村や支援機関への助言等
- 圏域連絡会、症例検討会の開催等関係機関ネットワークの推進
- 地域の支援者向け研修の実施 等

3 実施圏域(受託医療機関)

- 区西南部保健医療圏(日産厚生会玉川病院)
- 西多摩保健医療圏(大久野病院)
- 区東部保健医療圏(東京都リハビリテーション病院)
- 北多摩南部保健医療圏(東京慈恵会医科大学附属第三病院)

※ 今後、順次圏域を拡大して実施予定(平成25年度 計6圏域)

■独自の圏域ネットワーク

(北多摩北部地域高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会)

1 協議会登録団体

医療機関11、地区医師会3、通所施設・相談事業所等20、市障害担当課5、保健所1

計 40機関

2 実施状況

6月4日・11月26日 ネットワーク協議会開催

2月16日 市民交流事業 シンポジウム開催

①基調講演「新たな人生の目標を、共に考えるために必要なこと」日本障害者リハビリテーション協会

顧問・元東京大学医学部教授 上田 敬 氏

②地域での支援の実際～当事者を囲んで～

当事者、病院、障害者センター、社会福祉協議会、ヘルパー事業者による実践報告

「高次脳機能障害者と関わって…」
～新たな人生の目標を、共に考えるために～

日時 平成25年2月16日(土)

12:30～16:30(開場 12:45)

会場 小田町 北沢こども館(小田町4-1-20)【TEL 042-345-3300】

※当日は、お申し込みが必要です。

内容 ①基調講演「新たな人生の目標を、共に考えるために必要なこと」

②地域での支援の実際～当事者を囲んで～

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※基調講演は、日本障害者リハビリテーション協会よりご招待頂戴いたします。

※関係機関が協力してシンポジウムを企画

■区市町村ごとの支援体制づくり

●区市町村高次脳機能障害者支援促進事業(補助事業)

【目的】

区市町村が高次脳機能障害者、その家族等に対する相談支援を実施するとともに、医療機関、就労支援センター等の関係機関との連携を図り、高次脳機能障害者に対し適切な支援を提供し、高次脳機能障害者への支援の促進を図る。

【事業内容】

- ◎支援員を配置し、次の事業を行う
 - ◆相談支援 ◆関係機関との連携 ◆社会資源の把握・開拓 ◆広報・普及啓発
- ◎基準額：4,102千円 補助率：3/4

●高次脳機能障害者緊急相談支援事業(障害者施策推進区市町村包括補助事業)

当事者及び家族による地域での相談体制を進める。

【事業内容】

- ◎区市町村が実施する次の事業
 - ①当事者及び家族による高次脳機能障害者及びその家族を対象とした特別相談
 - ②特別相談を行う相談支援者に対する研修
- ◎基準額：108千円 補助率：1/2

【区市町村高次脳機能障害者支援促進事業実施状況】

年度	実施件数	実施区市町村名
19年度	2か所	【区部】杉並区、足立区
20年度	7か所	【区部】江東区、目黒区、杉並区、北区、足立区、葛飾区 【市町村部】青梅市
21年度	14か所	【区部】新宿区、江東区、目黒区、世田谷区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区 【市町村部】武蔵野市、青梅市、調布市
22年度	20か所	【区部】港区、新宿区、墨田区、江東区、目黒区、世田谷区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区 【市町村部】武蔵野市、青梅市、府中市、調布市、町田市、稲城市、奥多摩町
23年度	23か所	【区部】港区、新宿区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区 【市町村部】武蔵野市、青梅市、府中市、調布市、町田市、国立市、稲城市、奥多摩町
24年度	27か所	【区部】港区、新宿区、台東区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区 【市町村部】武蔵野市、青梅市、府中市、調布市、町田市、小平市、国分寺市、国立市、稲城市、奥多摩町

【区市町村の取組状況】(センター主催相談支援員連絡会での報告より)

●荒川区の取組

- ▶平成21年度～支援促進事業実施
- ▶支援機関：荒川区立心身障害者福祉センター(荒川たんぼセンター)
- ▶高次脳機能障害者のグループワーク(月～金)開設(地域活動支援センター事業として)
- ▶その他、言語訓練、セミナーの開催(年3回程度)、家族会の設立、荒川区リハネットでの情報共有などの活動

●青梅市の取組

- ▶平成20年度～支援促進事業実施
- ▶支援機関：青梅市障がい者サポートセンター
- ▶家族会、大久野病院(都の専門的リハ充実事業受託機関)、市サポートセンターの協働で認知グループ訓練(月2回)を立ち上げ。
- ▶その他、地域の関係機関職員の研修、家族会支援などの活動

※実施状況は23年度実績

2. 就労支援

■就労準備支援プログラム

地域の就労支援機関等からの依頼に基づき、一般就労(新規就職・復職)から福祉的就労まで、幅広い「職業生活」の実現のため、作業課題によるトレーニング、グループワーク等を組み合わせた、6ヶ月間の独自のプログラムを提供し、職業評価を行う。

①新規利用者数(平成24年度末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24年度	1	1	1	4	1	2	2	5	2	2	0	1	22
23年度	3	5	4	5	1	2	3	6	2	1	3	3	38
22年度	1	2	2	5	2	6	2	4	3	3	2	2	34
21年度	4	3	5	8	3	0	1	3	2	3	1	3	36
20年度	2	7	4	1	3	5	2	2	3	2	1	5	37
19年度	-	-	-	-	-	1	2	4	2	0	2	0	11

※平成19年9月から事業開始

②利用者の状況(事業開始以降の総計)

新規利用登録者数*	現在の利用中数	終了者数	修了者の現況(平成25年3月まで)				
			復職・就労	職業訓練	求職活動	通所施設 在宅	
178	11	161	32	10	20	84	15

*取り消し含む。

■区市町村における就労支援の取組

区市町村の就労支援センター等においても、高次脳機能障害支援の取組が進められている。

■区市町村障害者就労支援機関等における高次脳機能障害者の就労支援に関する調査

●調査目的

- 23年度に就労準備支援プログラム利用者の追跡調査を実施。就労支援機関の役割の重要性が明らかに。
- 地域の就労支援機関(区市町村就労支援センター、障害者就業・生活支援センター等)の高次脳機能障害者の就労支援の実態、当センター就労準備支援プログラムの利用について調査し、地域における就労支援の課題の整理とプログラムの有効性を検討

●調査対象

- 区市町村障害者就労支援センター 59機関
- 障害者就業・生活支援センター 6機関

●調査方法

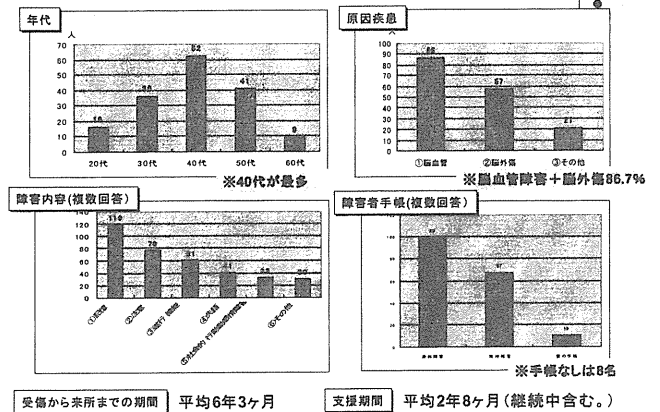
- アンケートによる調査(選択肢と自由記述)

●回答

- 48機関(回収率73.8%)
- 23年度中に支援した高次脳機能障害者 165名(男性135名、女性29名、回答なし1名)

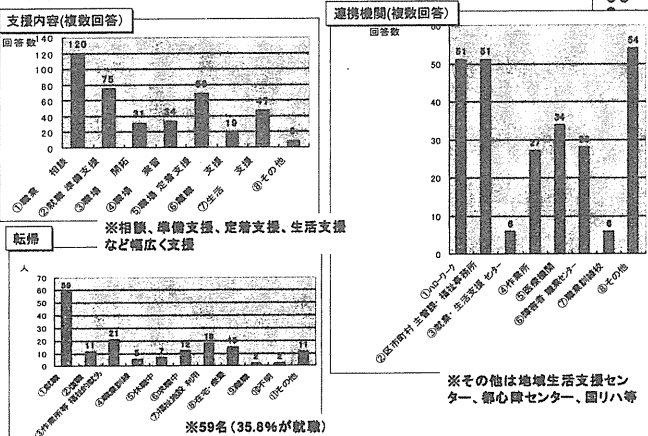
【調査結果概要】

●支援状況(対象者の属性)



【調査結果概要】

●支援状況(支援内容等)



【調査結果概要】

●就労準備支援プログラム利用状況

- ・プログラム利用経験あり 21機関(43.8%)
- ・概ね好意的評価。「客観的なデータが参考に」「課題が明確化」
- ・「本人・家族の障害理解の促進」「本人・家族の要望・期待」については、評価が分かれる。
- ⇒評価結果の提示や説明のしかたに工夫が必要

●高次脳機能障害者就労支援の課題

- ・障害特性や状態の把握が難しい
- ・職業適性の把握や適した作業の選択、マッチングが難しい
- ・本人や家族の障害理解が難しい。
- ※高次脳機能障害の障害特性が就労支援上の課題になっている。

●支援充実のために必要と思われる点

- ・企業・社会に対する高次脳機能障害についての啓発
- ・職業準備支援・職場適応支援・職務の切り出し・職場環境整備等
- ※職業や職場に向けた実践的な取組が重要

【まとめ】

- 高次脳機能障害の障害特性と障害理解の難しさ
⇒就労支援の現場でも課題・支援のポイントに
- 幅広い支援内容、多数の機関との連携
⇒相互の連携や情報共有の必要性
- 職業や職場に向けた実践的な取組、職業的観点の提供が重要
⇒就労準備支援プログラムの活用促進と的確な対応・具体的な情報提供を

3. 社会生活評価プログラム【24年10月】

■背景

- 就労準備の手前の段階にいる人への支援の必要性
- 地域機関のニーズ(医療ではなく生活面の評価)
- 更生施設(～23年度)で培った高次脳機能障害支援ノウハウ
- 支援拠点として、地域機関への支援の充実の必要

■社会生活評価プログラムの開始

- 地域の支援機関の依頼に基づき実施
- 自立した社会生活や就労等社会参加を目指す人を支援
- 個別課題・グループワークを通じて、生活管理・作業能力・対人技能面を評価、課題の整理を行う。(通所期間4ヶ月)
- 評価内容をもとに、支援の方向性や関わり方等を地域の支援機関に助言

4. 人材育成・普及啓発

■相談支援研修会

区市町村や相談支援機関、医療機関等の職員が対象

【平成24年度実施状況】

- ①7月31日 高次脳機能障害の基礎知識、当事者家族の体験談 294名
 - ②9月24日 小児期発症の高次脳機能障害児者について、家族の体験談 172名
 - ③11月30日 }「事例をとおして考える、高次脳機能障害者の支援」(グループワーク)
 - ④2月13日 } ③36名 ④33名
- *毎年の受講者増に対応して2日間実施

■相談支援員連絡会

区市町村等の実務者どうしの、情報交換。併せて、相談支援に関する基礎講座を実施(24年度テーマ:中途障害者の社会保障制度)


【平成24年度実施状況】

- ①第1回 7月5日 支援促進事業の取組報告 38区市 74名
- ②第2回 12月11日 情報交換と基礎講座 33区市 56名


■区市町村等における研修会等の開催

支援促進事業の普及に伴い、区市町村等主催の高次脳機能障害に関する研修会・講演会等が多数開催されている。(都センターからの講師派遣は、3月末現在21件)

グループ
(サウンドテーブル tennis)




ミーティング



■プログラム週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9:45～	タイムカード、自己紹介、体験活動、自己紹介	タイムカード、自己紹介、体験活動、自己紹介	タイムカード、自己紹介、体験活動、自己紹介	タイムカード、自己紹介、体験活動、自己紹介	タイムカード、自己紹介、体験活動、自己紹介
10:00～	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
10:15～	個別課題	個別課題	個別課題	グループ	個別課題
12:00～	昼食	ミーティング	昼食	昼食	昼食
13:00～	グループ	支援会議	グループ	個別課題	個別課題
15:00～	ミーティング	支援会議	ミーティング	ミーティング	ミーティング
15:15～	個別	支援会議	個別	個別	個別

個別課題
(パソコン)



■利用状況(3月末現在)

	平成24年度												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
新規	-	-	-	-	-	3	2	2	1	2	0	3	13
終了者	-	-	-	-	-	0	0	0	0	2	2	2	6

*9月はモデル実施

■「高次脳機能障害のある方のための災害時初動行動マニュアル」作成

●目的

高次脳機能障害者が、大規模な災害発生時に迅速かつ安全に避難が行えるように、当事者・家族向けに、日頃の備えや災害時に的確な避難行動を行うための情報、必要な支援を得るための情報等を分かりやすくまとめ、災害への備えについて考える契機となるよう提供する。(視覚障害、聴覚障害、知的障害についても作成予定)

●配布先等

都内相談機関・家族会等に配布
ホームページに掲載し、区市町村等で同様のものを作成する際の参考として提供

●作成部数

20,000部

●作成時期

平成25年3月

5. 相談支援

■相談支援件数(平成25年3月末現在)

新規463件、継続268件

相談者(新規):本人・親族246件、行政・病院・施設等168件、その他49件

※相談の傾向と対応(平成24年度 新規相談463件)

医療に関する相談	172件	
障害の理解、対応等	62件	
生活上の困難・対応	72件	
就労	79件	
サービスの利用	166件	
その他	11件	
助言		239
情報提供		200
他機関につなぐ		1
その他(カウンセリング等)		2
所内引継ぎ(プログラム利用等)		30
相談継続の検討必要		22

注)1件につき複数の相談内容が計上されているものもある。

◎子供の高次脳機能障害の相談が増えている。

◎他県のコーディネーターからの引継ぎ事例が目立った(都内での復職・復学等)

◎継続的に支援を要する複雑なケースが増えている。

厚生労働科学研究費補助金
分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究（H24-精神-一般-009）
平成24年度東海ブロック

分担研究者 山田 和雄
名古屋市立大学教授

研究要旨

高次脳機能障害者の地域生活支援について、「東海ブロック連絡協議会」を開催することで、ブロックとして各県の実情を検討し、意見交換をする。それによって、
①地域にあった支援ネットワークの構築に必要な点を検討する。
②ブロック各県が持ち回りで、「東海ブロック連絡協議会」を主催するとともに、事例検討会などを開催することで、各県の支援力アップを図る。
③各県の高次脳機能障害支援の補う部分に関し、科研費をその一助とする。

A. 研究目的

東海ブロックにおける各県の支援力強化、ネットワークの構築にむけて、実情や手法を検討する。

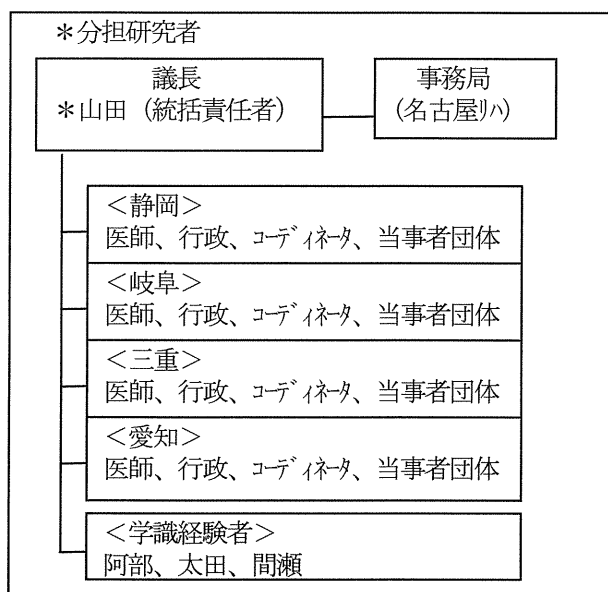
B. 研究方法

- 平成18年度から東海ブロック4県（静岡、岐阜、三重、愛知）の高次脳機能障害に携わる行政担当者、医師、支援コーディネーター、家族会代表、および学識経験者による東海ブロック連絡協議会（議長：分担研究者）を設置。それ以降、このメンバーが参加する意見交換・研修の場を設け、年に1-2回継続して開催している。平成24年度においては愛知県において連絡協議会を開催した。

<東海ブロック連絡協議会委員>

	氏名	所属等
<議長>	山田和雄	名古屋市立大学病院/分担研究者
<学識経験者>	阿部順子	岐阜医療科学大学
〃	太田喜久夫	藤田保健衛生大学病院
〃	間瀬光人	名古屋市立大学病院
<静岡県>		
医師	片桐伯真	聖隷三方原病院
行政	鈴木弥生	静岡県健康福祉部精神保健福祉室
支援コーディネーター	坂口英夫	障害者生活支援センターくぬぎの里
当事者団体	滝川八千代	脳外傷友の会しずおか
<岐阜県>		
医師	篠田淳	木沢記念病院、中部療護センター
行政	丹羽伸也	岐阜県精神保健福祉センター
支援コーディネーター	宇津山志穂	木沢記念病院
当事者団体	西村憲一	NPO法人脳外傷友の会長良川
<三重県>		
医師	園田茂	七栗サナトリウム病院
行政	堀山由実	三重県障害者相談支援センター
支援コーディネーター	田辺佐知子	三重県身体障害者総合福祉センター
当事者団体	古謝由美	三重TBIネットワーク
<愛知県>		
医師	深川和利	名古屋市総合リハビリテーションセンター
行政	梅村文彦	愛知県健康福祉部障害福祉課
支援コーディネーター	長谷川真也	名古屋市総合リハビリテーションセンター
当事者団体	尾山芳子	NPO法人脳外傷友の会みずほ

<東海ブロック連絡協議会の構成>



2. 持ち回りで行う連絡協議会により、各県が抱えている課題などを検証する。また、各県の高次脳機能障害支援の実情に合わせ、独自のセミナーの開催による広報・啓発や研究などを行う（各々の県の啓発活動や研究は県報告参照）。

C. 研究成果

1. H24年度東海ブロックの活動

(1) 東海ブロック連絡協議会の開催

開催日時：H25. 1. 25（金）13:00～16:30

会場：ウイंकあいち（名古屋市）

参加：36名

第1部 連絡協議会

東海4県（静岡、岐阜、三重、愛知）の現状報告—実績、課題・方針／意見交換

第2部 研修会

高次脳機能障害者の生活訓練 ～生活版ジョブコーチ支援について～

講師：阿部順子氏（岐阜医療科学大学保健科学部教授）

(2) その他の活動

- 各県の高次脳機能障害者支援に関わる研究費として運用
- 東海ブロック全体の研究のほか、東海4県で分担して高次脳機能障害支援に関わる研究費として運用した

2. 各県の24年度活動状況（詳細は各県資料）

◇静岡県

(1) 支援体制

<支援拠点機関>

圏域名	支援拠点機関
賀茂・熱海伊東圏域	オリブ ((0558) 43-3131)
駿東田方圏域	障害者生活支援センターなかいざりハ ((0558) 83-2195)
富士圏域	障害者生活支援センターくぬぎの里 ((0545) 35-5589)
静岡志太榛原圏域	障害者地域サポートセンター北斗 ((054) 278-7828)
中東遠・浜松圏域	ナルド ((053) 437-4609)
県全体	聖隷三方原病院 ((053) 439-9046)
	高次脳機能障害サポートネットしずおか ((054) 622-7405)

<支援コーディネーター> 18名

(2) 実績

① 拠点機関直接相談数 (件)		
来所	1315	
電話・メール等	2296	
その他	937	
② 拠点機関間接連携数 (件)		
来所	60	
電話・メール等	711	
その他	83	
③ 活動実績 (回)		
連絡会・協議会	主催 11	協力 14
研修会・講習会	主催 13	協力 25
ケース会議	主催 77	協力 23
勉強会・家族会	主催 82	協力 77

(3) 今後について

- ① 医療機関での障害の見落としの予防
- ② 支援従事者、一般県民の障害理解のための啓発
- ③ 関係機関による地域支援ネットワークづくり
- ④ 支援の地域間格差の解消
- ⑤ 新しい動きの効果的な活用
 - 高次脳機能障害に特化した障害者自立支援法による就労移行支援・自立訓練（生活訓練）
 - 事業所の開設や高次脳機能障害者の就労継続を支援するナイトサロンの開催など

◇岐阜県

(1) 支援体制

- 支援拠点機関：岐阜県精神保健福祉センター
- 支援拠点病院：社会医療法人厚生会 木沢記念病院
- 支援コーディネーター：1名 支援拠点病院に配置
- 支援体制：圏域ごとの支援体制の整備を推進しており、協力医療機関12ヶ所と地域支援協力機関4ヶ所を県として指定した。

(2) 実績

- 拠点機関相談数；来所98件 訪問25件 電話連絡等91件
- 拠点機関連携数；来所1件 訪問3件 電話連絡等253件
- 連絡会・協議会；主催3回 講師等協力6回
- 研修会・講習会；主催4回 講師等協力15回
- ケース会議・勉強会等；主催4回 講師等協力5回

(3) 平成25年度以降の予定・課題

- 支援ネットワークの活動の充実；協力医療機関の受診や、協力医療機関と圏域コーディネーターとの連携を促進するために、ネットワーク会議の継続と内容の充実を図る。

- ・圏域ごとの相談支援の充実；養成した圏域コーディネーターによる相談支援を本格化するために、圏域コーディネーターが駐在する地域支援協力機関にも県として相談業務を委託する。また、養成事業は終了するが、今後も定期的に圏域支援コーディネーター会議を開催し、ケース検討や情報交換を行う。
 - ・作業訓練や日中活動の場の拡充；協力機関から日々の地域生活につなげるため、高次脳機能障害者の受け入れ施設を発掘していく必要がある。通所施設向けの具体的な内容の研修ができるとよいか。
 - ・行動障害の重いケースへの対応；精神科医療機関での治療、保健所による生活状況の把握・緊急時のサポートが必要である。そのためには研修会等で精神科や保健師への普及啓発が必要である。
- これらにより、長年の課題である、入所訓練が必要なケースへの対応、生活訓練・作業訓練の場の不足、支援コーディネーターのマンパワーの不足を補えるとよいか。

◇愛知県

(1) 支援体制

- ・支援拠点機関：名古屋市総合リハビリテーションセンター
- ・支援コーディネーター：3名
- ・支援体制：拠点機関の特徴としては、＜総合拠点方式＞と＜開放型循環システム＞があげられ、高次脳機能障害者の訓練・支援に有効に機能している。

(2) 実績

- ・拠点機関相談数；来所1689件 訪問53件 連絡等583件
- ・拠点機関連携数；来所108件 訪問58件 電話等404件
- ・連絡会・協議会 主催 3回 講師等協力—
- ・研修会・講習会 主催 9回 講師等協力40回
- ・ケース会議 主催168回 講師等協力36回
- ・勉強会等 主催 9回 講師等協力1回

(3) 平成25年度以降の予定・課題

①高次脳機能障害者の累積的増加

- ・地域での支援体制の確立が必要。そのため、24年度から名古屋リハ内に『地域支援システム検討委員会』を設置し、新たに以下を開始した。
 - 愛知県の圏域会議（11 圏域／除名古屋市）における高次脳機能障害の周知
 - 尾張西部圏域をこれまでの経緯から重点地域として位置づけ、研修を開始
- ・従来から実施している『高次脳機能障害関連施設連絡会』『名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会』等の継続的開催

②診断基準に合わない患者の相談の増加

- ・高齢者や認知症患者—高次脳訓練・支援とは別
 - ・診断書のみ依頼—障害者手帳、障害年金等の関係
- さまざまな機会を通しての名古屋リハ機能の案内

③患者の多様化

- ・MTBI、脳脊髄液減少症との合併、精神症状ベース等
- ・家族の高齢化、単身者等のキーパー不在者の増加

④啓発活動

- ・リーフレット英訳版、高次脳機能障害児の冊子の発刊

⑤ABIA（愛知県脳損傷協議会）関係

- ・愛知県高次脳機能障害者社会復帰促進事業の実施—地域での「家族相談会」の継続開催
- ・NPO 法人笑い太鼓、NPO 法人みずほの研修会・講習会の継続的な開催による高次脳周知
- ・名古屋リハとの日常的連携の強化

◇三重県

(1) 支援体制

- ・支援拠点機関：三重県身体障害者総合福祉センター
- ・支援コーディネーター 1.5人
- ・包括的リハビリテーション

『三重県モデル』と称し、高次脳機能障害者に対して診断、訓練や生活支援（地域生活）をシステムチック（systematic）に包括的リハビリテーションを行うもの。

＜拠点病院との連携＞

- 松阪中央総合病院＝主に急性期リハを担当、診断・外来による認知リハ及び三重県モデルを通過したケースのアフターフォローを実施
- 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム＝主に回復期病棟における入院治療訓練を担当し、入院による認知リハを実施

＜三重県身体障害者総合福祉センター＞

神経心理学的評価および認知リハ、職業リハを実施。総合的な相談・直接的また間接的な支援、アフターフォローを実施している。機能については、大きく下記の3つになる。

(2) 実績

- | | |
|------------------|-------------|
| 拠点機関相談数：電話 460 件 | 来院/来所 374 件 |
| メール 139 件 | 訪問 328 件 |
| 拠点機関連携数：電話 549 件 | 来院/来所 46 件 |
| メール 95 件 | 訪問 219 件 |

主催

- ・研修会：セミナー2回
- ・ケースカンファレンス6回（拠点病院の医師参加）
- ・相談支援体制連携調整委員会2回

＜啓発普及＞

- ・支援経過手帳を作成（日本損害保険協会助成事業）
- ・行政：県主催の市町障がい保健福祉担当者会議での紹介
- ・医療機関：直接配布。MSW 協会の研修会での紹介
- ・相談支援事業所：県主催の相談支援部会、療育部会での紹介

- ・その他、家族会、職業センター、個人に配布

(3) 25年度の活動予定と課題

- ・支援対象者の増加⇒圏域で支えて行けるよう、専門性の強化
- ・社会的行動障害者への支援⇒効果的な治療及び日中活動の場の確保
- ・就労への支援⇒就労支援・就労訓練の強化
- ・小児への支援⇒教育関係機関との連携
- ・他医療機関などとの連携強化⇒高次脳機能障害支援経過手帳の支援普及医療との連携により、早期介入を実施し、2次障害を発生させない

D. 考察

高次脳機能障害支援普及事業、厚生労働科学研究が開始された平成18年度以降、東海ブロック各県においては、それぞれの地域性はあるものの、不足部分については地域のネットワーク等により補完しあい、それぞれの支援機関においては支援力をアップさせることで、高次脳機能障害者の支援体制を充実させてきた。

一方で、高次脳機能障害の周知、各県の支援体制がボトムアップするにつれて、新たな問題も表面化されてきている。各県の課題を列挙すれば方針とも重なるが、C1の[各県の24年度活動状況]に記載したものがあげられる。

なお、平成24年度からの「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」において、東海ブロック連絡協議会はこのような課題を確認・検証する場として機能し、また各県に分配している科研費は地域における高次脳機能障害者支援の研究および普及に寄与している。

E. 結論

各県の成果は、各県活動報告に詳細記載。

なお、厚生労働科学研究については、上記考察で述べたとおりで、高次脳機能障害者支援に寄与するものであるだけに、今後も継続されることが望まれる。

F. 健康危険情報

—

G. 研究発表

別紙各県活動報告・研究成果刊行参照。

H. 知的財産権の出願・登録状況

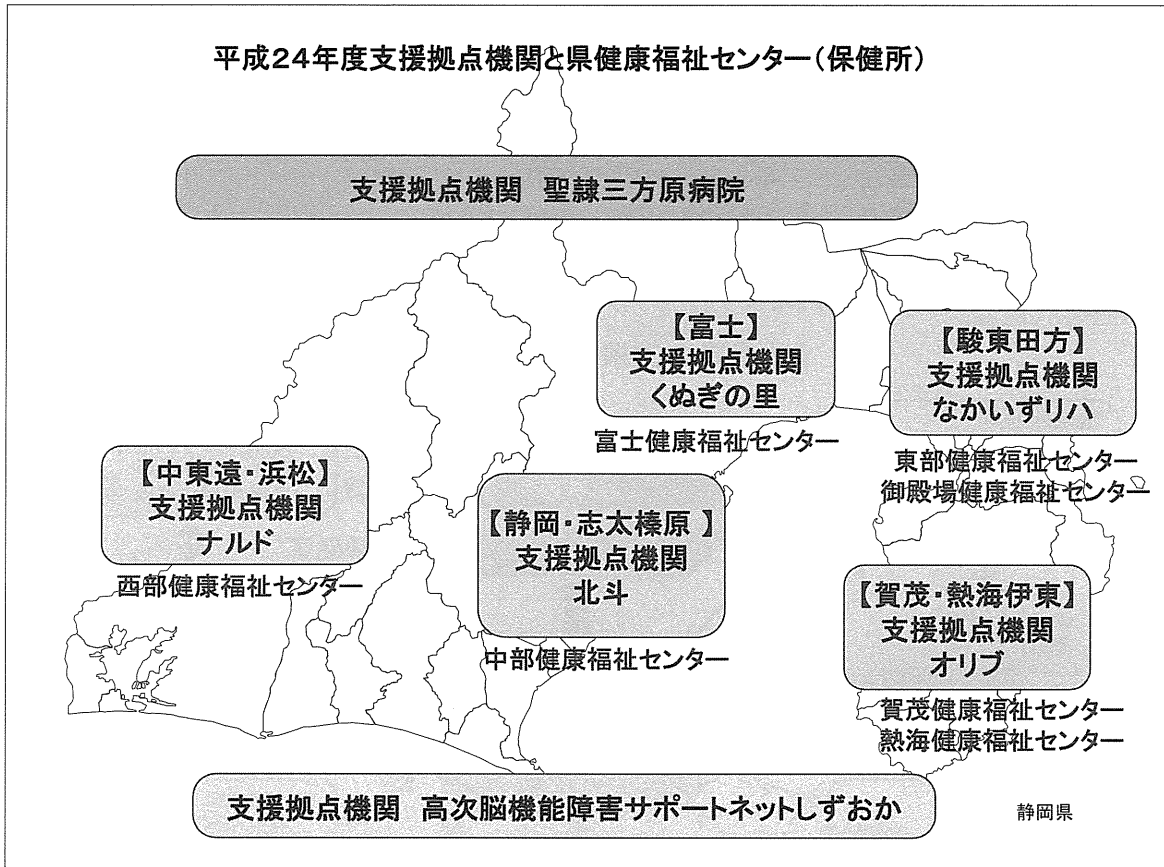
なし。

静岡県 平成 24 年度実績報告

静岡県					
支援拠点機関 (電話)	賀茂・熱海伊東圏域	オリブ ((0558)43-3131)			
	駿東田方圏域	障害者生活支援センターなかいずりハ ((0558)83-2195)			
	富士圏域	障害者生活支援センターくぬぎの里 ((0545)35-5589)			
	静岡志太榛原圏域	障害者地域サポートセンター北斗 ((054)278-7828)			
	中東遠・浜松圏域	ナルド ((053)437-4609)			
県全体	聖隷三方原病院 ((053)439-9046)				
	高次脳機能障害サポートネットしずおか ((054)622-7405)				
支援コーディネーター数		18名			
支援拠点機関直接相談数		電話 1,874件	来院来所 1,315件	メール書簡 422件	その他 937件
支援拠点機関間接連携数		電話 565件	来院来所 60件	メール書簡 146件	その他 88件
支援拠点機関活動実績		連絡会・協議会	研修会・講習会	ケース会議	勉強会・家族会
	主催（開催回数・参加者）	11回 449人	13回 1,177人	77回 586人	82回 2,733人
	協力した会合	14回	25回	23回	77回
その他活動	冊子、ウェブサイト、執筆ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター「高次脳機能障害をご存じですか？」 ・リーフレット「高次脳機能障害者への理解と支援のために」 ・ちらし「高次脳機能障害を知っていますか？」 ほか			

24年度の実績（講習会の開催等）	
＜連絡協議会＞	
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害地域基盤整備事業検討専門家会議 <ul style="list-style-type: none"> ①平成24年7月6日（金）29人参加 ②平成25年3月8日（金）31人参加 	
＜医療等総合相談＞	
<ul style="list-style-type: none"> ・全健康福祉センター・保健所（7か所）において、延20回 利用者 延59人 	
＜支援従事者研修＞	
<ul style="list-style-type: none"> ・県及び県健康福祉センター・保健所による研修 延7回 参加者 延492人 （対象：医療従事者、福祉関係者、就労支援関係者、行政関係者等） ・拠点病院による研修 延2回 参加者 延309人 （対象：医師、OT、PT、ST等） ・支援コーディネーター連絡会（事例検討・情報共有等）3回 出席者 延44人 	

平成24年度支援拠点機関と県健康福祉センター(保健所)



今後について

- 1 医療機関での障害の見落としの予防
医療機関での障害の見落としをなくし、受傷後早期の対応及び訓練が行われるよう、医療従事者の障害理解をすすめる。
- 2 支援従事者、一般県民の障害理解のための啓発
支援従事者、当事者家族、一般県民に対する啓発や研修等を継続し、障害の理解を促進し適切な支援に繋げる。
- 3 関係機関による地域支援ネットワークづくり
診断・評価に基づき連続したケアが身近な地域でできるよう、医療機関を中心に据えた地域支援ネットワークづくりをすすめる。
- 4 支援の地域間格差の解消
支援従事者の体系的な研修を企画し、支援コーディネーターの資質の向上を図ることにより支援の地域間格差の解消をめざす。
- 5 新しい動きの効果的な活用
高次脳機能障害に特化した障害者自立支援法による就労移行支援・自立訓練（生活訓練）事業所の開設や高次脳機能障害者の就労継続を支援するナイトサロンの開催など、新たな動きを限定的な利用にとどまらせることなく、効果的な活用をすすめる。

1. 支援体制

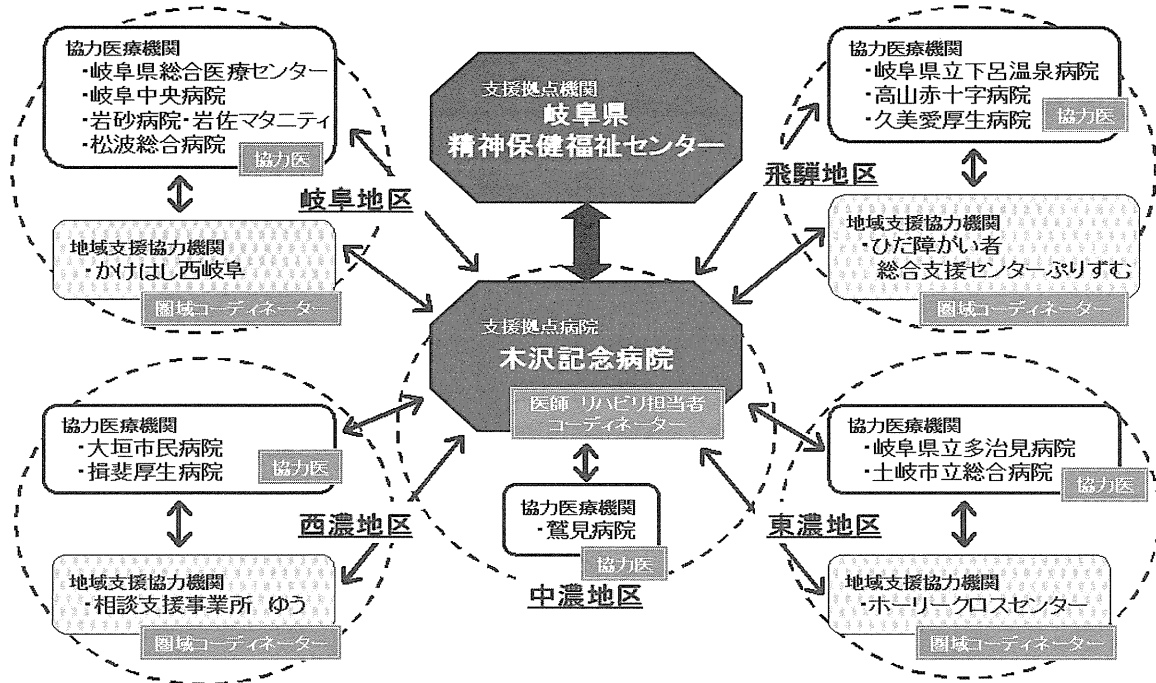
* 支援拠点機関：岐阜県精神保健福祉センター

支援拠点病院：社会医療法人厚生会 木沢記念病院

* 支援コーディネーター：1名 支援拠点病院に配置している。

* 支援体制：圏域ごとの支援体制の整備を推進しており、協力医療機関 12ヶ所と地域支援協力機関 4ヶ所を県として指定した。

【岐阜県の支援体制;地域連携型】



2. 数字実績

- (1) 拠点機関相談数；来所 98 件 訪問 25 件 電話連絡等 91 件
- (2) 拠点機関連携数；来所 1 件 訪問 3 件 電話連絡等 253 件
- (3) 連絡会・協議会；主催 3 回 講師等協力 6 回
- (4) 研修会・講習会；主催 4 回 講師等協力 15 回
- (5) ケース会議・勉強会等；主催 4 回 講師等協力 5 回

3. 実績

(1) 高次脳機能障害支援対策推進委員会

今年度は平成 25 年 2 月 20 日に開催。各事業内容を報告し、来年度の計画について検討した。

(2) 協力医療機関等ネットワーク会議

圏域ごとに指定した協力医療機関・地域支援協力機関の関係者が集まり、情報交換や研修を行う場＝ネットワーク会議を新たに設置した。平成 24 年 4 月に全体会議として全圏域の機関合同で行い、その後は近隣圏域の機関が集まる会を平成 24 年 9 月・11 月に 2 回開催した。初年度であった今年度は、障害や制度についての講義や拠点病院のコーディネーターからの事例紹介など

を行った。

(3) 圏域相談支援コーディネーターの養成

平成 22 年度から開始した、高次脳機能障害圏域相談支援コーディネーター養成事業を継続した。県内 4 圏域、各 1 ヶ所ずつの事業所・各 1 名ずつの職員に対して、今年度まで 3 年間、研修を行い、圏域ごとの支援コーディネーターの養成を行った。今年度は、三重県の支援拠点機関の見学を行った他、各圏域コーディネーターが昨年度までに未参加だった研修(国リハの研修会、障害者職業センターの見学研修)に参加した。平成 25 年 2 月の支援コーディネーター全国会議にも参加した。また、拠点病院のコーディネーターが把握したケースを居住地の圏域コーディネーターに連絡し、地域での支援について、一緒に考え、圏域コーディネーターに直接ケースに関わってもらった。さらに、近隣圏域で開催したネットワーク会議や研修会において、圏域コーディネーターが各自の施設紹介を行った。

(4) 相談支援

相談支援は支援拠点機関・支援拠点病院・当事者通所施設で実施した。相談件数は前記したとおりである。内訳を検討すると、面接相談は支援拠点機関・支援拠点病院・当事者通所施設ともに前年度比で横ばいだったが、拠点病院への電話やメールでの相談・他機関との連携の件数は前年度までに比べて大幅に増加した。この増加の要因としては、他県の支援拠点機関からの紹介・受診調整、障害者職業センターや県内各圏域コーディネーターとの連携などが考えられる。

(5) 普及啓発活動

今年度はリーフレットを改訂し、新たに協力機関を掲載した。また、県内各地で下記の研修会を実施した。研修会は、協力医療機関等ネットワーク会議と連動するように、開催場所・時期を工夫した。内容は、外部講師を招いての講演で普及啓発を行った他、事業や支援体制の整備状況の報告をし、県内各圏域コーディネーターが各自の施設紹介を行った。リーフレットや研修会の情報については支援拠点機関のホームページに掲載した。さらに、記した以外の県内外の研修会等でも、支援拠点病院の医師が講師として高次脳機能障害に関する知識の普及に努めた。

高次脳機能障がい 普及啓発研修会 ＜飛騨地域＞ H24. 10. 13	主催：精神保健福祉センター 場所：丹生川文化ホール 参加者数：46 名 講師・内容：神奈川県総合リハビリテーションセンター 青木重陽氏 『高次脳機能障がいの理解と支援』
高次脳機能障がい 普及啓発研修会 ＜岐阜地域＞ H24. 12. 12	主催：精神保健福祉センター 場所：岐阜県福祉農業会館 参加者数：63 名 講師・内容：聖隷三方原病院 片桐伯真氏 『地域でのサービス・関係機関の連携 ～地域に根ざした支援の成果と課題～』
岐阜 高次脳機能障がい フォーラム H25. 1. 26	主催 第 1 部：精神保健福祉センター 第 2 部：損害保険協会助成 場所：ふれあい福寿会館 参加者数：172 名 講師・内容： 第 1 部；国立障害者リハビリテーションセンター 中島八十一氏 『高次脳機能障害支援普及事業の現状と展望』 第 2 部；千葉県千葉リハビリテーションセンター 太田令子氏 『‘この人’の支援に生かせるネットワーク作り』 パラリンピック自転車競技日本代表 石井雅史氏夫妻 『夫婦で歩んだパラリンピックまでの道のり～夢をあきらめない～』